

月刊

平成22年10月10日 発行(毎月10日発行)
昭和37年4月18日第3種郵便物認可 第52巻第14号(通巻第644号)

プリテックステーション

THE PRITEC NEXT STAGE

**特集：デジタルフロントで見つける
新たな事業領域**

10
2010

www.new-pri.com

印刷会社の新製品
継承者 弘和印刷 瀬田章弘 氏
iPad・iPhoneによる印刷業界への影響

NEWビジネス
印刷会社のeビジネスを支援



印刷の多様さで新市場開拓に取り組む オープンハウスでアイデア提案

新規市場開拓に向けて取り組む

今年で創業60周年を迎える株式会社フォレストは、9月7日と8日、一般のお客様へのPRを目的としたイベント「フォレストオープンハウス2010」を開催した。オープンハウス当日は、本社ビルの1階から3階までを使って、各種パンフレット、ノベルティグッズなど多様な印刷製品を展示・紹介し、印刷物のアイデアを提案した。

1階の入口では大判パネルで60年の歩みを紹介し、銅凸版や樹脂版、CTP版なども展示して、同社の歴史を紹介。2階に上ると、卓上カレンダーになる名刺をはじめ、子供向けの写真集・企業の営業マンツール・会社案内などの各種冊子類、個人名を入れたカレンダーやカードなどのバリエーション豊富な印刷類、缶バッジやストラップ型アルバムといったオンデマンドグッズ各種に加えて、同社がDTPを手掛けている出版物、電子書籍の見本など具体的な印刷物を提案した。また3階では、デジタルプリントサービス対応システムとして稼動している富士ゼロックスの700 Digital Color Pressをメインに、「明治の朝顔復興プロジェクト」で制作した印刷物や正岡子規の記念館「子規庵」で販売しているハガキ、一筆箋などの印刷事例も紹介した。

今回のオープンハウスには、既存顧客の中でも一般企業であったり、繋がりはあるけれど受注に至っていない顧客先などを優先して誘致したほか、

出版社や印刷業界などの企業にはメールを使ってオープンハウス開催を告知した。2日目は台風の影響もあって悪天候だったが、飛び込みで来場する人も多く、2日間にわたり多くの顧客が会場を訪れた。また、会期中はライブ動画共有サービスの「USTREAM」でオープンハウスの模様をライブ中継するなど楽しい試みも行った。

同社の顧客割合は、売上規模で見れば出版社が約5割を占めており、4割が印刷会社、1割が一般企業などだ。しかし、印刷物の小ロット化やニーズの多様化など市場は変化しており、新たな印刷市場の開拓が課題となっている。そこで同社が注目しているのが一般企業なのである。

一般企業に注目している理由は、印刷工程の事を知っている分、他社と価格を比較する傾向のある出版社や印刷会社とは異なり、スタッフの対応や利便性、サービス内容、データ制作などをトータルな視点で発注先を選択してもらえるということにあるという。市場が変化している今だからこそ、「価格競争への対応も時には必要だが、価格競争ではない市場の開拓も必要だと思う」と、茂木徳久社長は言う。

今回のオープンハウスイベントは、そうした一般企業への訴求が第一の目的であると同時に、実際の印刷物を見てもらうことで、企業ごとに印刷物制作におけるアイデアに繋げてもらいたい、という思いがある。その甲斐もあって、オープンハウスイベントの会場で印刷物を見て刺激をうけて、「今度、作ってもらいたい」という依頼も発生し



茂木徳久社長

「明治の朝顔復興プロジェクト」では、水に強い用紙を使って朝顔の鉢用タグも制作

フォレストオープンハウス
2010会場で、多彩な印刷
見本を真剣に見る来場者



デジタルプリンティングサービスで稼働中
のゼロックス700 Digital Color Press

ている。

変化する印刷市場に対応する

同社は凸版印刷用の版を制作する写凸製版の会社として創業したが、これまでも時代の流れとともに写凸からの脱皮、アナログからデジタルへの転換などいくつかの変革期を乗り越えてきた。「今は新たな転換期にあるかもしれません」と見ており、その言葉を反映するように、オープンハウスでは電子書籍への対応も紹介、デジタルコンテンツの利活用についても提案している。次なるビジネスの方向が明確に決まっているわけではないが、「紙ばかりではいられない時代になってきました」と茂木社長は言う。

市場の変化は様々なところから伺える。例えば最近では、大量部数で制作するのが当たり前だった「会社案内」を制作しない企業も増えている。制作しても最小部数しか印刷しない傾向にあるなど、企業にとって印刷物の在り方も大きく変わってきている。そうすると、これまでのように何でもオフセット印刷で大量に制作するというわけにはいかない。品質に納得してもらえれば、コストや納期などによってオンデマンド印刷で対応したほう

がよい印刷物も多い。こうした流れに対応するように、同社では一昨年からはデジタルプリンティングサービスを本格的にスタート。現在、社内では2台のデジタル印刷システムが稼働している。

同社の1台目のデジタル印刷システムは、社内の業務用としての導入だった。それまでカラープリンター3台、モノクロコピー機1台とその他にもプリンターなどを設置して対応していた業務を、デジタル印刷システム1台に集約した。その生産性に期待して、2台目にはデジタルプリンティングサービス専用機として700 Digital Color Pressを導入。小部数の写真集や会社案内などの冊子類から、DMやハガキ、各種バリエーション製品にいたるまで柔軟に対応しており、色再現に厳しいアパレル関係の出力なども本紙で色味を確認してもらうことで「問題はない」という。

ニーズが多様化している今だからこそ、柔軟な対応と印刷商品のアイデアを提案することで、市場拡大に取り組んでいる。

株式会社フォレスト

東京都千代田区飯田橋4-5-13

電話 03-3265-5757(代)

<http://www.kforest.co.jp>